

**令和２年度第２回
国産材の安定供給体制の構築に向けた北海道地区需給情報連絡協議会**

■ 日 時：令和３年１月２５日（月） １３：３０～

■ 会 場：ニューオータニイン札幌２階鶴西の間

次 第

１．開 会

２．挨 拶

林野庁林政部木材産業課林業・木材産業情報分析官

３．議 事

（１）林野庁からの情報提供等について

アンケート結果について

（２）木材需給の現状及び今後の見通しについて

（質疑応答）

（３）新型コロナウイルス感染症の影響による木材需給ギャップの解消について

（意見交換）

（４）協議会の活動について

（意見交換）

（５）座長による総括

４．事務局からの連絡事項

５．閉 会

**令和2年度第2回国産材の安定供給体制の構築に向けた
北海道地区需給情報連絡協議会参加者名簿（順不同、敬称略）**

分 野	所 属	役 職	氏 名	参加方法		会場オブザーバー 参加
				会場	WEB	
学識経験者	北海道大学 大学院 農学研究院	教授【協議会座長】	柿澤 宏昭	○		
	国立研究開発法人 森林研究・整備 機構森林総合研究所 北海道支所	地域研究監	嶋瀬 拓也		○	
	地方独立行政法人 北海道立総合研 究機構森林研究本部林産試験場 利 用部 資源・システムグループ	研究主幹	石川 佳生		○	
森林管理局	北海道森林管理局 森林整備部	部長	河野 裕之	○		佐藤淳一、赤羽根浩、白岩誠
森林整備センター	国立研究開発法人 森林研究・整備 機構 森林整備センター 札幌水源林整備事務所	所長	木村 伸宏		○	
森林組合	北海道森林組合連合会 営業部	部長	福田 靖大	○		
素材生産	北海道素材生産業協同組合連合会	会長	高篠 和憲	○		
	旭川地方森林整備事業協同組合	事務局長（代理 事務局次長）	菅 典秀		○	
	王子フォレストリー株式会社	代表取締役	三浦 務		○	
	帯広地方素材生産事業協同組合	専務理事	佐藤 成利	○		
	国安産業株式会社	常務取締役	港 和久		○	
木材加工	株式会社サトウ	代表取締役社長	松永 秀司	○		
	協同組合オホーツクウッドピア	理事長	中根 幹成		○	
	佐藤木材工業株式会社	常務取締役	佐藤 健右		○	
	北海道木材産業協同組合連合会	専務理事	萩原 祐一		○	
	北海道木材産業協同組合連合会 （木材チップ・山棒対策委員会）	常務理事	吉田 朋泰		○	
	丸玉木材株式会社 第2商品部	木材グループ長	八鍬 和彦		○	
木材流通	王子木材緑化株式会社 北海道支店	支店長代理	丸山 泰弘		○	
	住友林業フォレストサービス株式会社 東日本事業部北海道営業所	所長	長尾 知昌		○	
	物林株式会社 営業本部 北海道グ ループ 国産材営業部	部長	中村 雅則		○	
建設	一般社団法人 日本木造住宅産業協会	専務理事（代理 北海 道支部事務局長）	正木 義人		○	
	一般社団法人 JBN・全国工務店協会	理事（武部建設株式会 社 代表取締役）	武部 豊樹		○	
製紙・パルプ	王子木材緑化株式会社 北海道支店	支店長代理（再掲）	丸山 泰弘		○	
木質バイオマス 発電	王子グリーンエナジー江別株式会 社 江別発電所	マネージャー	土田 守広		○	
	オホーツクバイオエナジー株式会社	代表取締役社長	長谷川 香織		○	
苗木生産	北海道山林種苗協同組合	専務理事	荒川 剛		○	
都道府県	北海道 水産林務部 林務局 林業木材課	木材産業担当課長	宮谷 勇	○		逢坂喜代美
林野庁	林野庁木材産業課	林業・木材産業情報分析 官	岡井 芳樹		○	
		課長補佐	高木 望		○	
		生産流通調整官	熊谷 有里		○	
		流通担当専門職	枝窪 圭人		○	
中央団体	全国素材生産業協同組合連合会	専務理事	川端 省三		○	
協議会事務局	北海道素材生産業協同組合連合会	専務理事	工藤 穂	○		

木材需給動向について (北海道地区)

令和3年1月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 直近の価格推移（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギその他（北海道地区）

(2) 製品価格の推移・動向

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・北海道地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

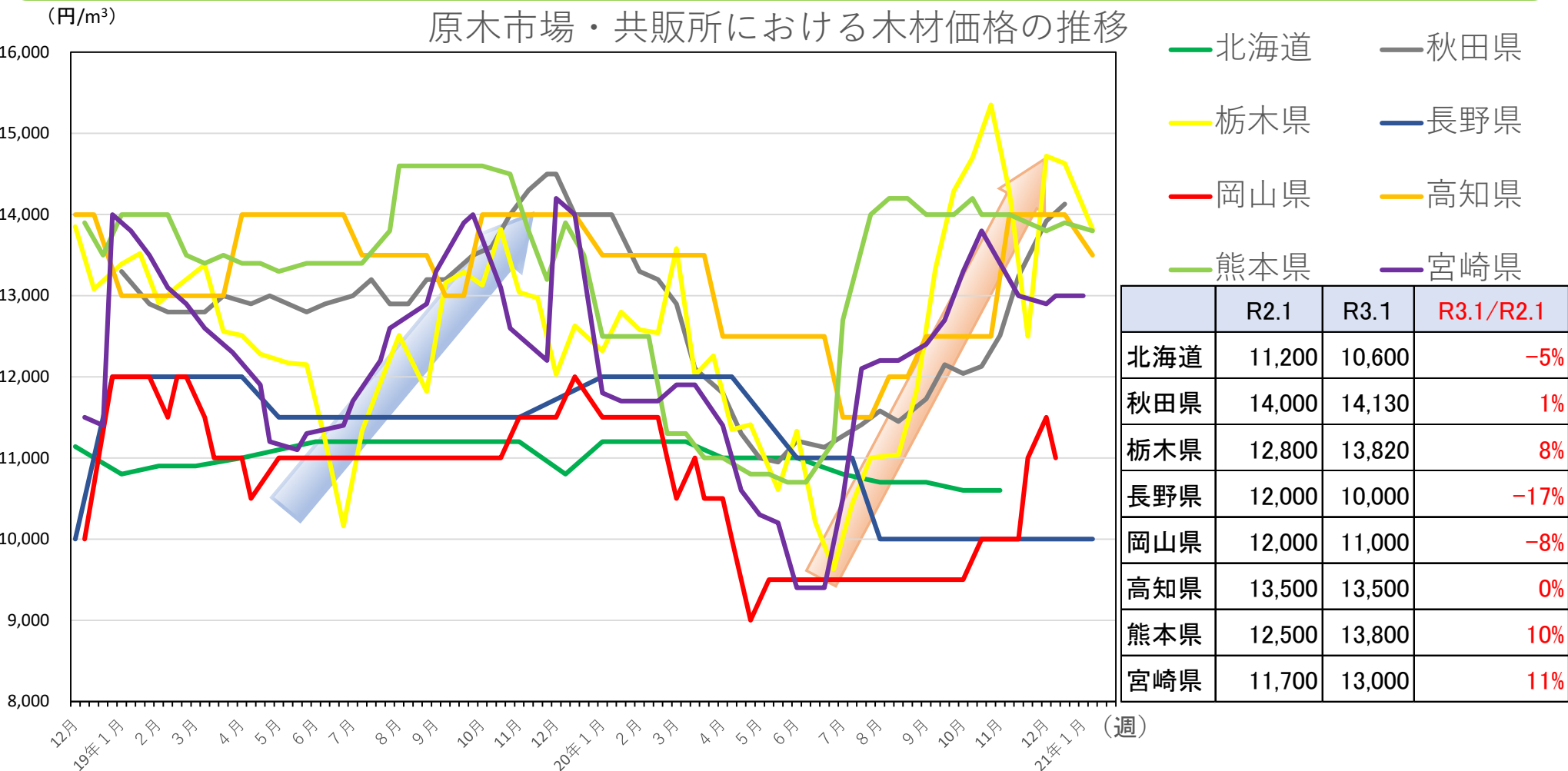
3 住宅着工戸数の動向

(1) 住宅着工戸数の推移

(2) 北海道地区の新設住宅着工

1 価格の動向 (1) 直近の価格推移 (原木市場・共販所)
ア スギ (全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ・ 例年秋から12月頃まで原木価格は上昇する傾向にあるが、本年は高騰する場面もあるものの、例年並みとならない地域が見られる。
- ・ 本年1月のスギ原木価格は、対前年比17%減~11%増。

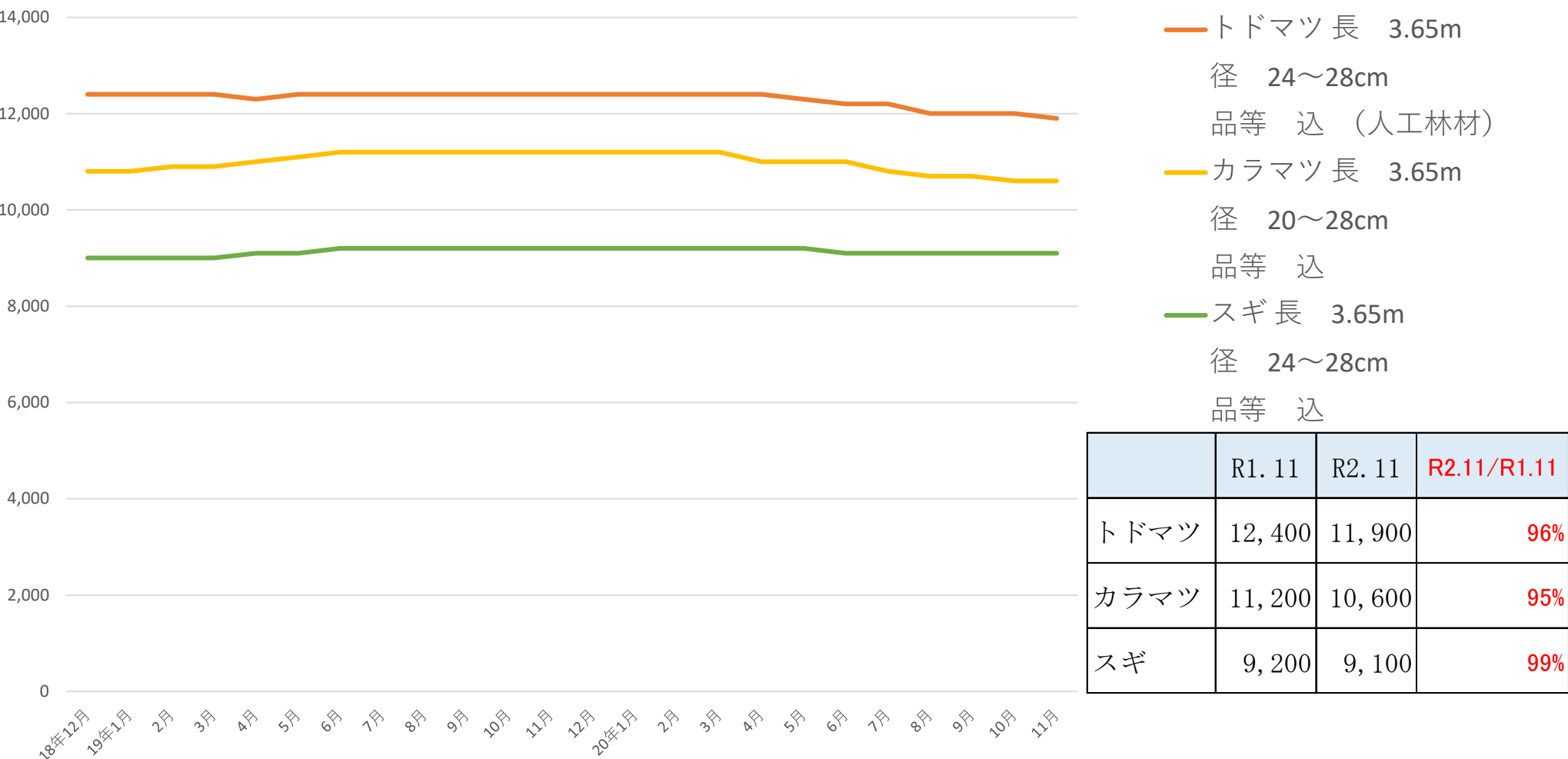


注1：北海道はカラムツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65~4mの中目原木。
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギその他(北海道地区) φ24cm程度、3.65～4.0m（平成30年12月～）

・ トドマツ、カラマツ、スギ共に季節変動が無く、価格は概ね横ばいだが 5 月以降やや下落傾向が見られる。

原木市場・共販所における木材価格の推移



資料：北海道「木材市況調査月報」

(2) 製品価格の推移・動向

- ・製品価格は原木価格と異なり季節変動はないが、令和2年は**価格の下落**が見られる。ただし、**10月以降は横ばい**の傾向で、**スギ柱角・乾燥材**の価格については**地域によって回復**が見られる。

○ スギ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/㎡]

	令和元年 9月	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北海道	67,700	67,700	↓ 67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	-
東北	58,000	58,000	58,000	58,000	↓ 58,000	↓ 55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
首都圏	54,000	54,000	↓ 53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	↓ 53,000	↑ 54,000	54,000	54,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	↓ 60,000	↓ 55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
大阪	55,000	55,000	55,000	↓ 54,000	↓ 54,000	↓ 52,000	↓ 50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
広島	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000
九州	53,000	52,000	↓ 50,000	50,000	↓ 48,000	↓ 48,000	↓ 47,000	↓ 46,000	46,000	↑ 48,000	↑ 49,000

※スギ柱角・乾燥材は北海道のみ、エゾマツ・トドマツ105×105×3650mm

○ ヒノキ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/㎡]

	令和元年 9月	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
首都圏	66,000	66,000	↓ 65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
大阪	64,000	64,000	64,000	↓ 63,000	63,000	↓ 61,000	↓ 59,000	59,000	59,000	59,000	59,000
広島	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
九州	62,000	62,000	62,000	↓ 61,000	61,000	61,000	↓ 60,000	60,000	60,000	60,000	60,000

※ヒノキ柱角・乾燥材は九州のみ、120×120×3000mm

○ 針葉樹構造用合板 12×910×1820mm[円/枚]

	令和元年 9月	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
東北	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	↓ 950	950	950	950	950
首都圏	1,050	1,050	↓ 1,030	1,030	↓ 1,010	↓ 980	↓ 950	950	↓ 940	940	940
名古屋	1,050	1,050	↓ 1,020	1,020	↓ 1,000	↓ 960	↓ 930	930	930	930	930
大阪	1,050	1,050	↓ 1,010	1,000	↓ 990	↓ 950	↓ 920	↓ 900	900	900	900
広島	1,070	1,070	↓ 1,050	↓ 1,030	1,030	↓ 1,000	↓ 950	↓ 930	930	930	930
九州	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

○ スギ集成管柱 105×105×3000mm[円/本]

	令和元年 9月	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
東北	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
大阪	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750
広島	1,900	↓ 1,880	1,880	1,880	↓ 1,860	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860	1,900
九州	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800

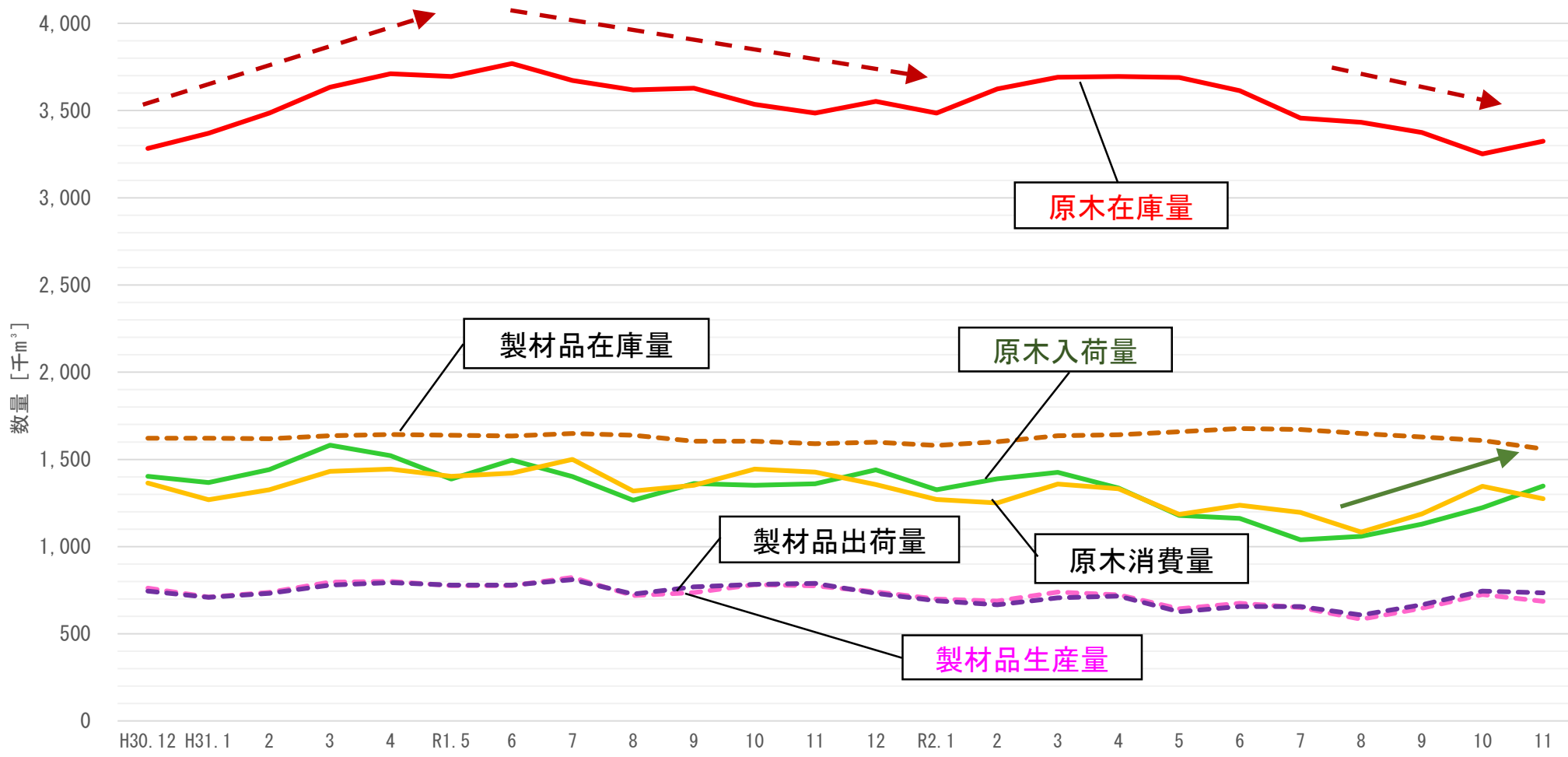
□横ばい ■↓下落 ■↑上昇

出典：日刊木材新聞

2 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国）

- 製材品の生産量、出荷量は昨年は年間を通じて大きな変化はなかった。令和2年5月以降緩やかに減少していたが、9月から回復傾向。
- 通常、原木の入荷量、消費量は、2、3ヶ月単位で、在庫量は半年単位で増減を繰り返す傾向にある。新型コロナウイルス感染症等の影響により、令和2年4月以降の入荷量は減少するも、8月からは増加に転じている。

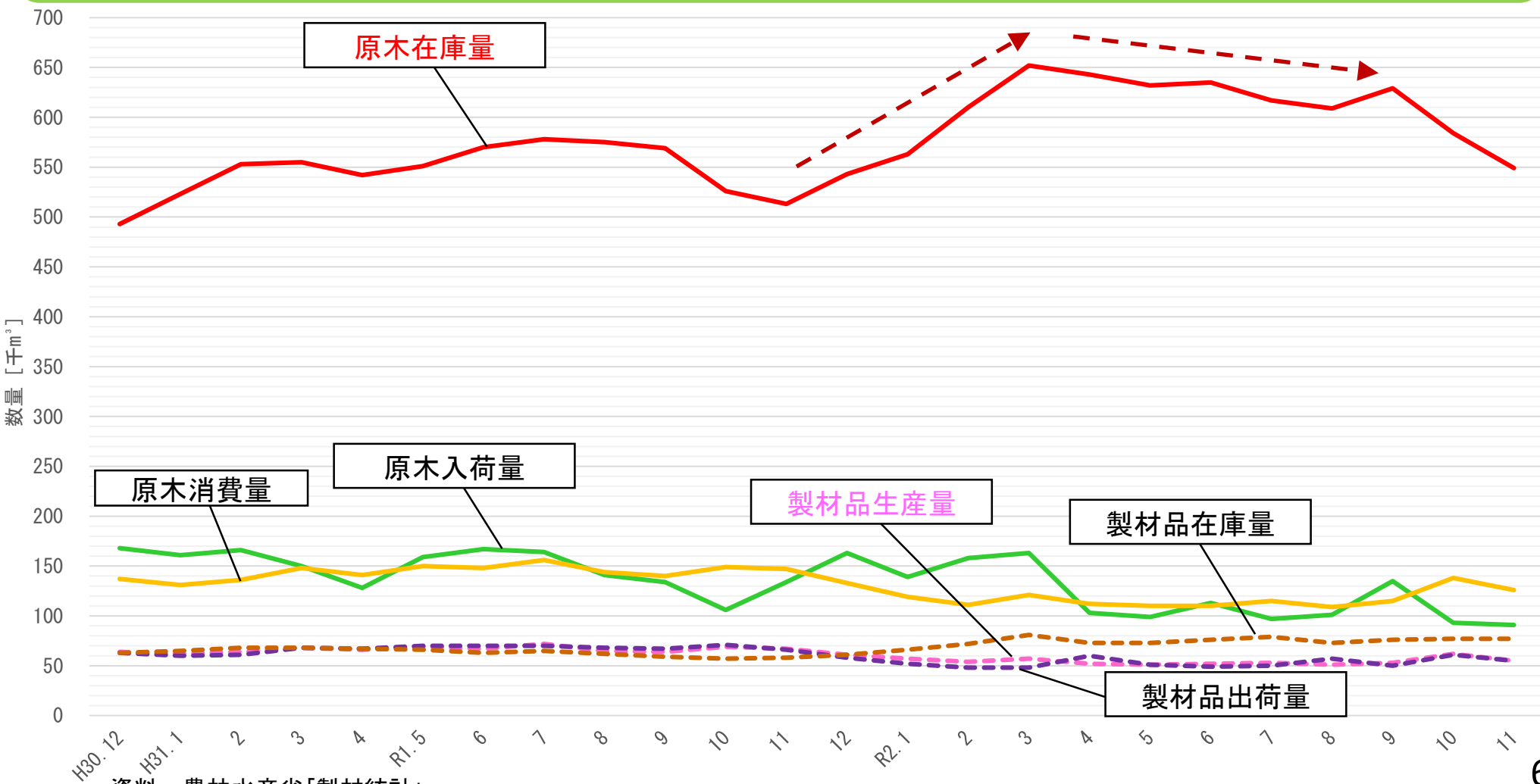


資料：農林水産省「製材統計」

(1) 製材（北海道地区）

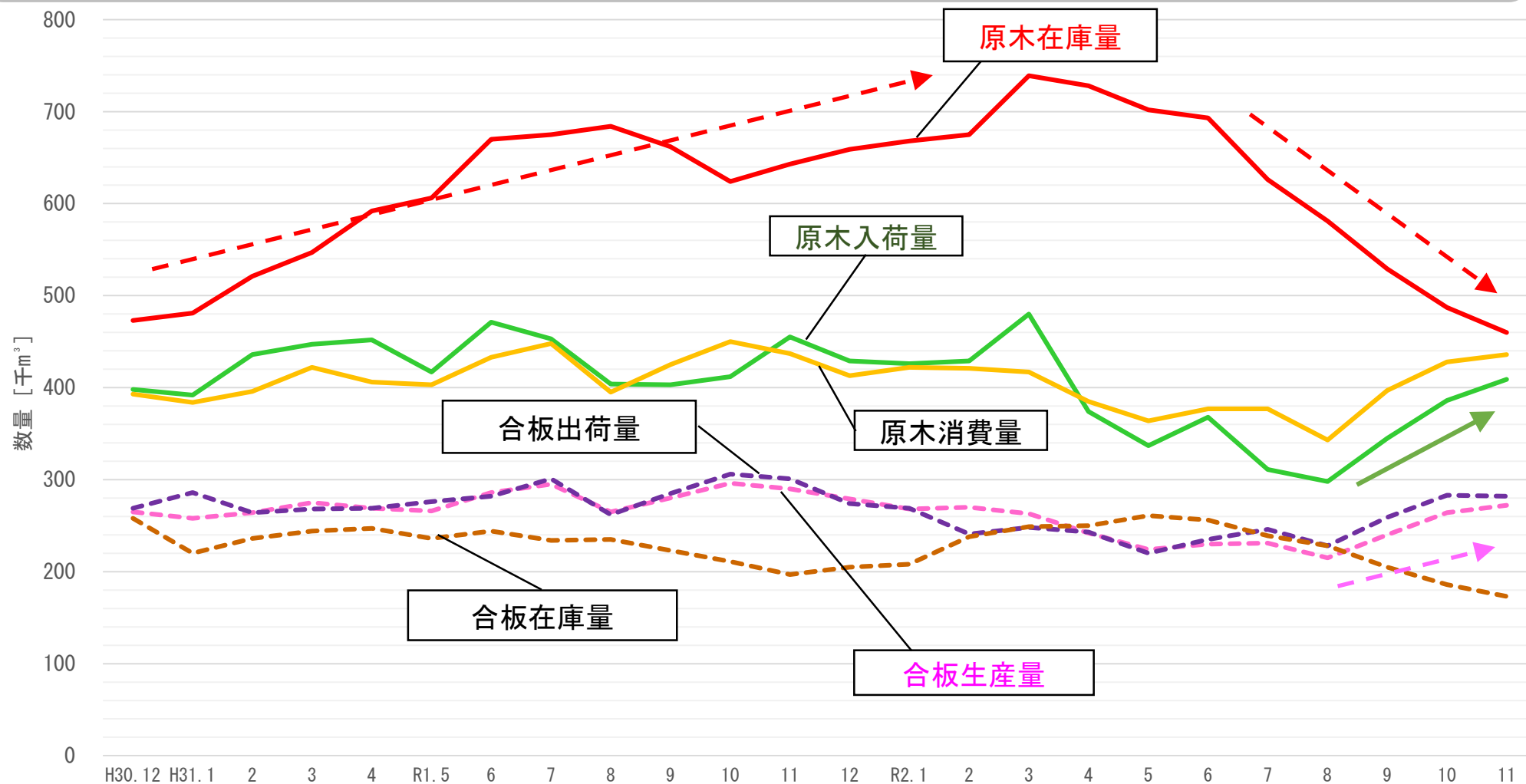
「製材統計」によると、北海道地区では、

- ・ **製材品の生産量、出荷量**は令和元年は概ね7万m³/月で推移したが、令和2年は概ね5万m³/月に減少。
- ・ **原木の入荷量**は半年単位で増減を繰り返す傾向があるが、本年は**4月に急減**して以降低位で推移。



(2) 合板（全国）

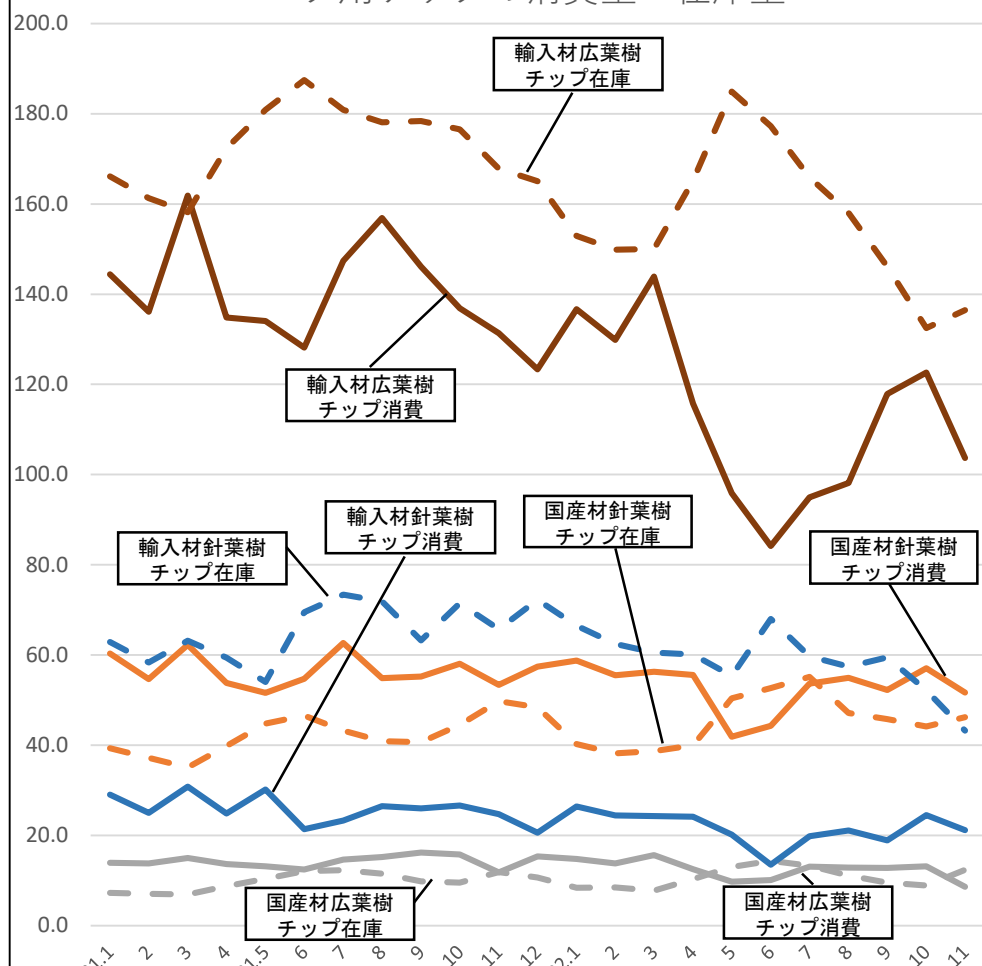
- 合板の生産量、出荷量は令和元年10月以降、減少傾向にあったが、令和2年9月から増加に転じた。
- 通常、原木の入荷量、消費量は、数ヶ月単位で増減を繰り返す傾向にあるが、新型コロナウイルス感染症等の影響により令和2年4月以降の入荷量は急激に減少。9月からは増加に転じた。
- 原木の在庫量については、増減を繰り返しつつ長期的に増加していたが、令和2年4月以降減少傾向にある。



(3) チップ(全国)

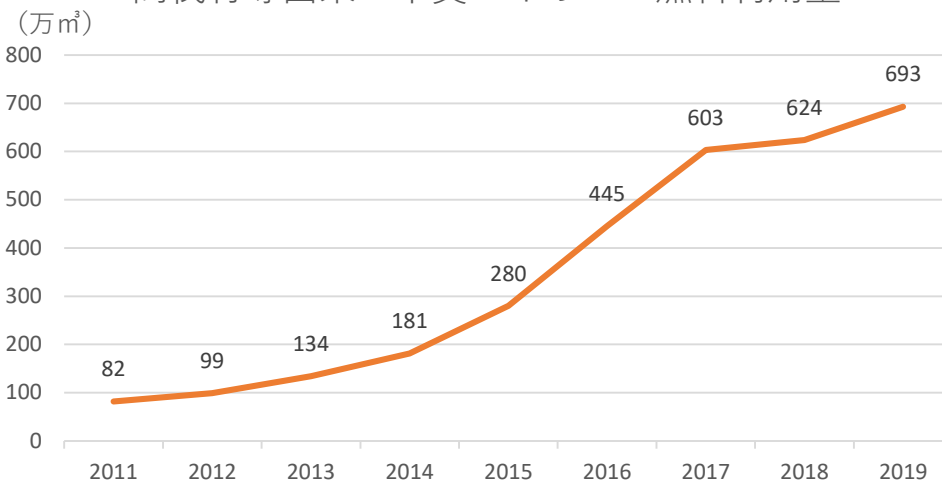
- ・パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップが今年4月から激減。7月から回復傾向にあったが、11月は減少に転じた。国産針葉樹チップも今年5月に大きく減少したが、6月から回復傾向。
- ・パルプ用チップの消費量は印刷・情報用紙の生産と連動していると考えられる。
- ・木質バイオマス発電向け燃料については、増加傾向が続いている。

(万 m^3) パルプ用チップの消費量・在庫量



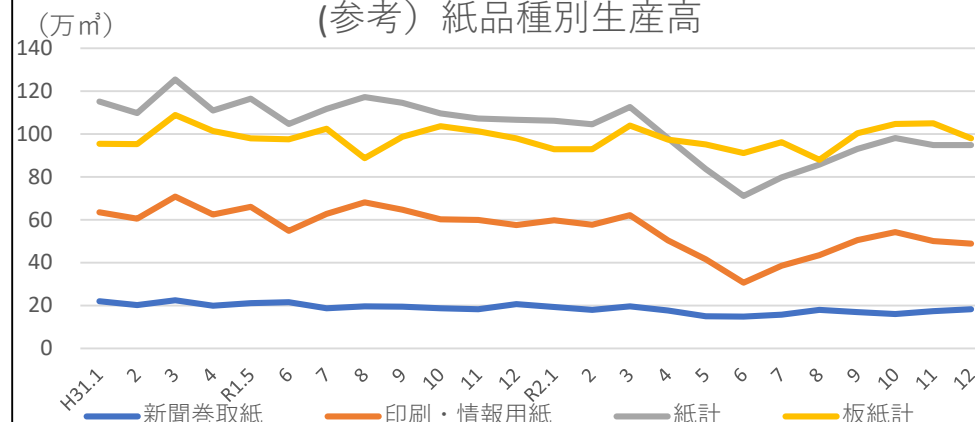
資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

間伐材等由来の木質バイオマス燃料利用量



出典：木材利用課調べ(～平成26年)、林野庁「木材需給表」(平成27年～)

(参考) 紙品種別生産高

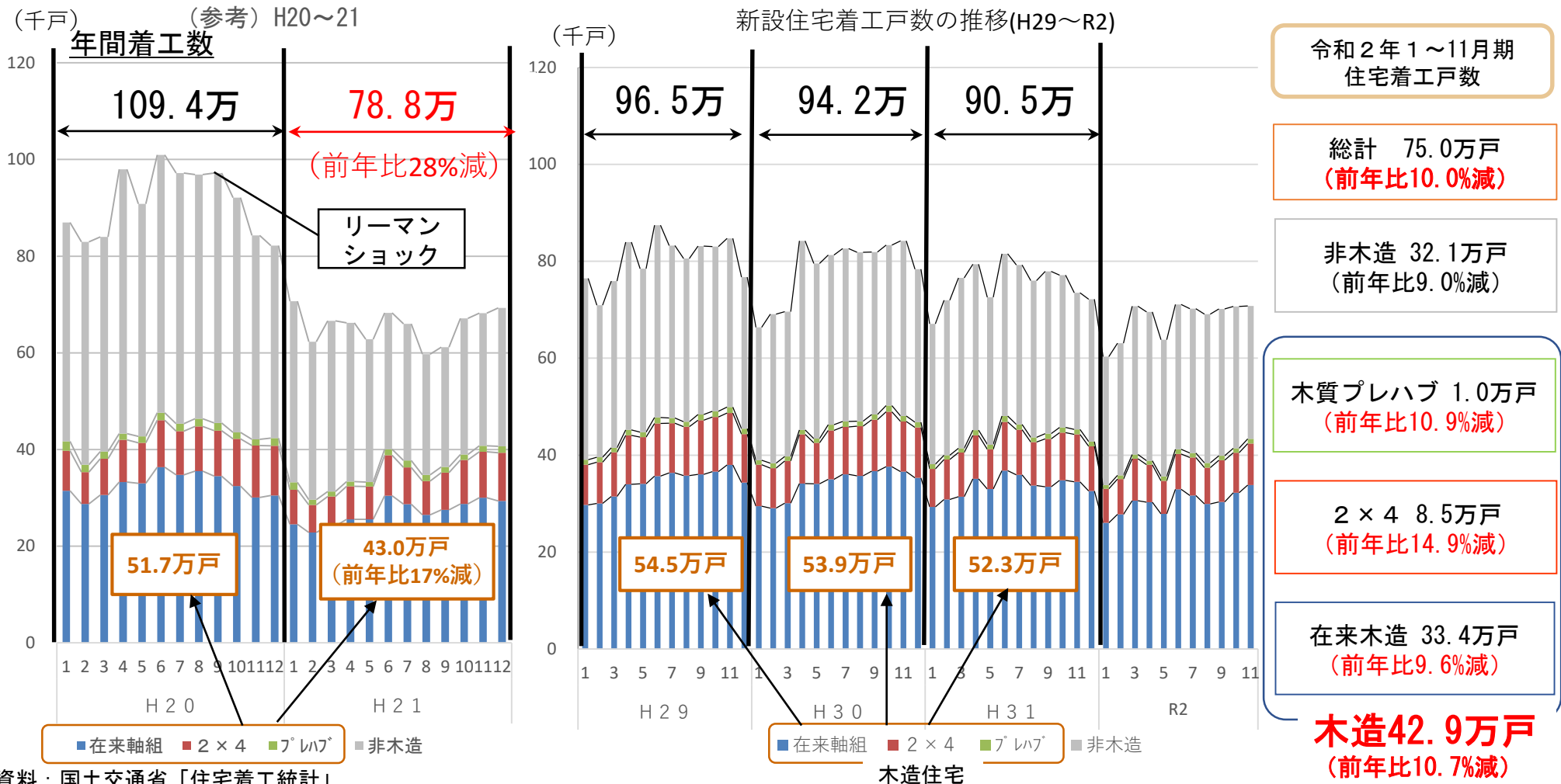


資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

3 住宅着工数の動向

(1) 住宅着工戸数の推移（平成20年1月～令和2年10月）

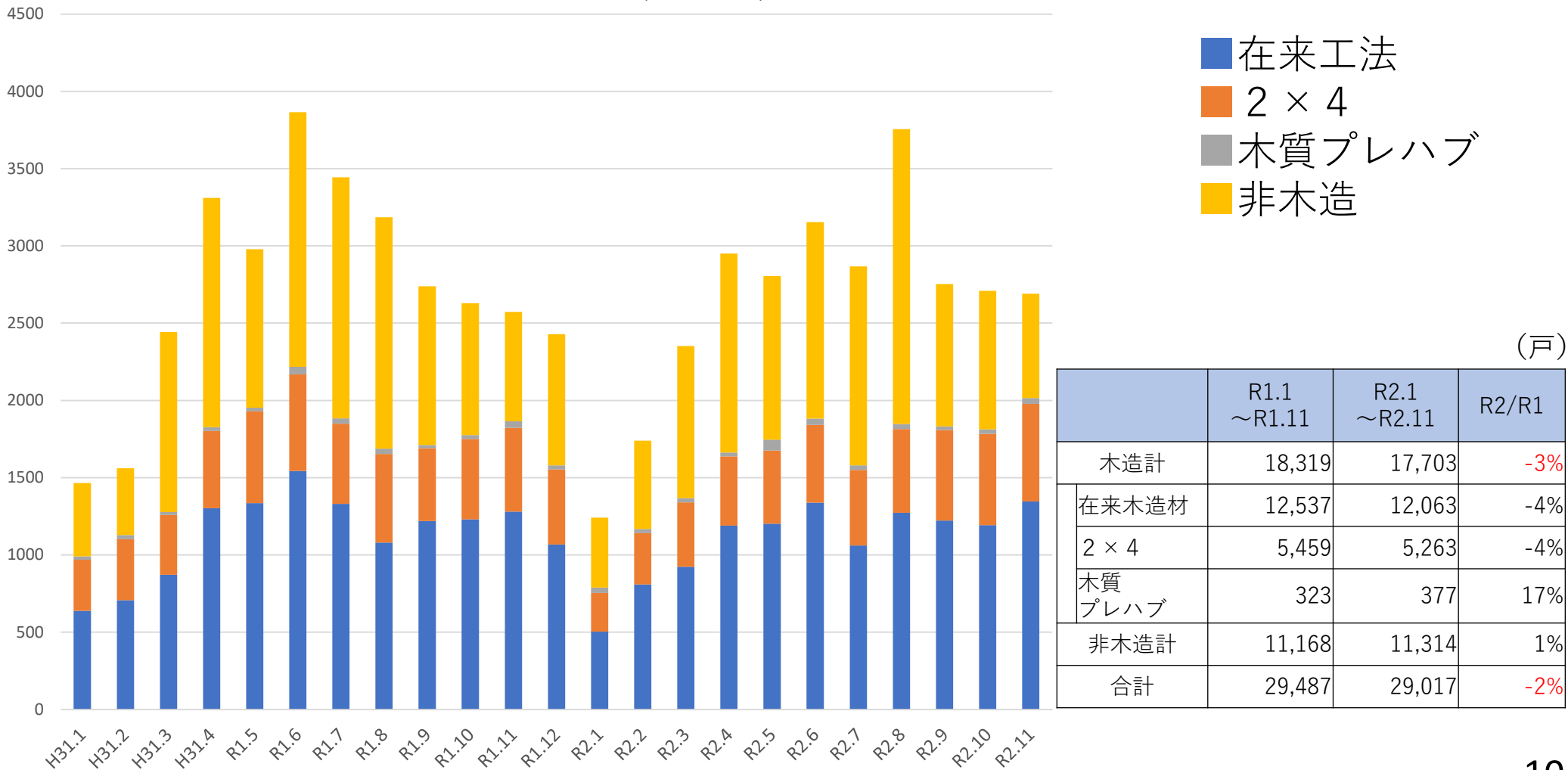
- ・ 昨年度の新設住宅着工戸数は、90.5万戸。そのうち、**木造住宅は52.3万戸（57.8%）**。
- ・ **令和2年度1～11月**の木造住宅着工戸数は、**42.9万戸（前年比10.7%減）**。
- ・ 緊急事態宣言の発令により、**大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少した影響が懸念**されたが、着工戸数全体としては目立った落ち込みは見られない状況。



(2) 北海道地区の新設住宅着工（平成31年1月～令和2年11月）

- 北海道地区の新設住宅着工戸数について、今年1～11月期の昨年同期の実績を比較すると、全体として**2%減**、木造だけでみると**3%減**となっている。

新設住宅着工戸数（北海道）

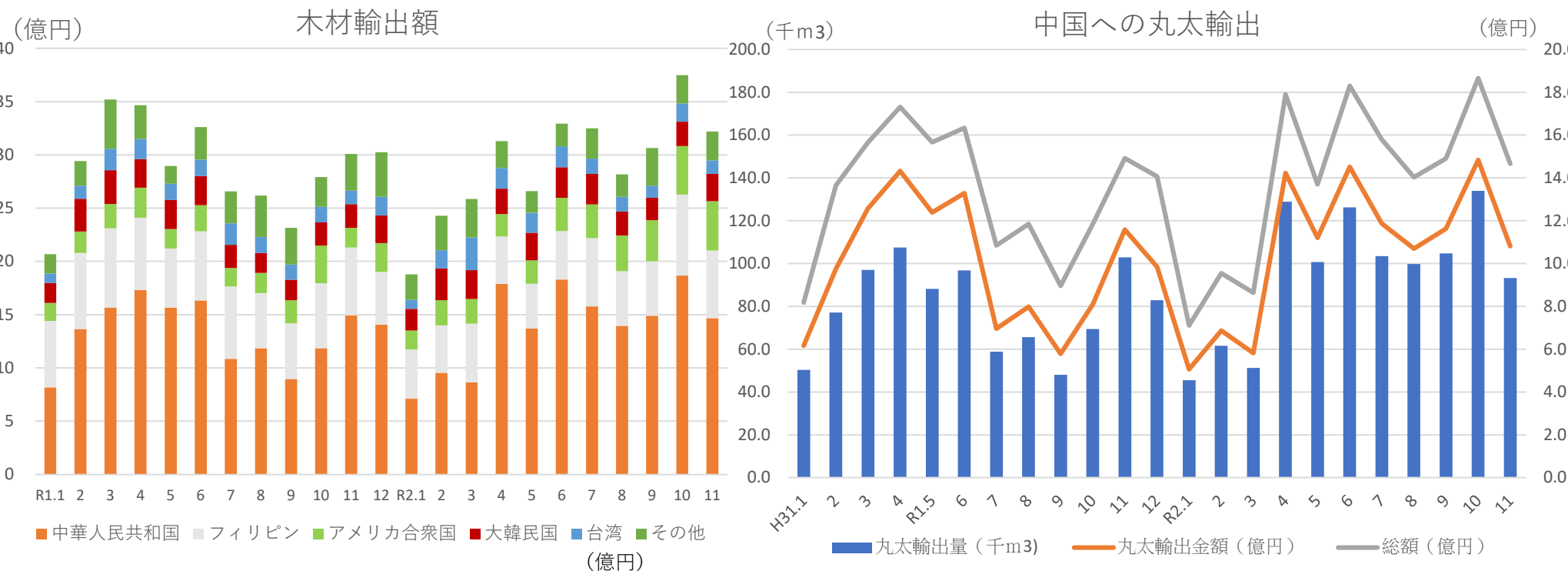


木材貿易動向について

令和3年1月
林野庁

1 木材輸出額

- ・ 木材輸出額について、1～11月期と昨年同期の実績を比較すると、1.7%増となっている。
- ・ 輸出額の約半分が中国向けであり、その大半が丸太輸出となっている。
- ・ 中国への丸太輸出は、今年1～3月に大きく落ち込んだが、その後は大きく増加し、1～11月期で対前年比21.7%増となった。



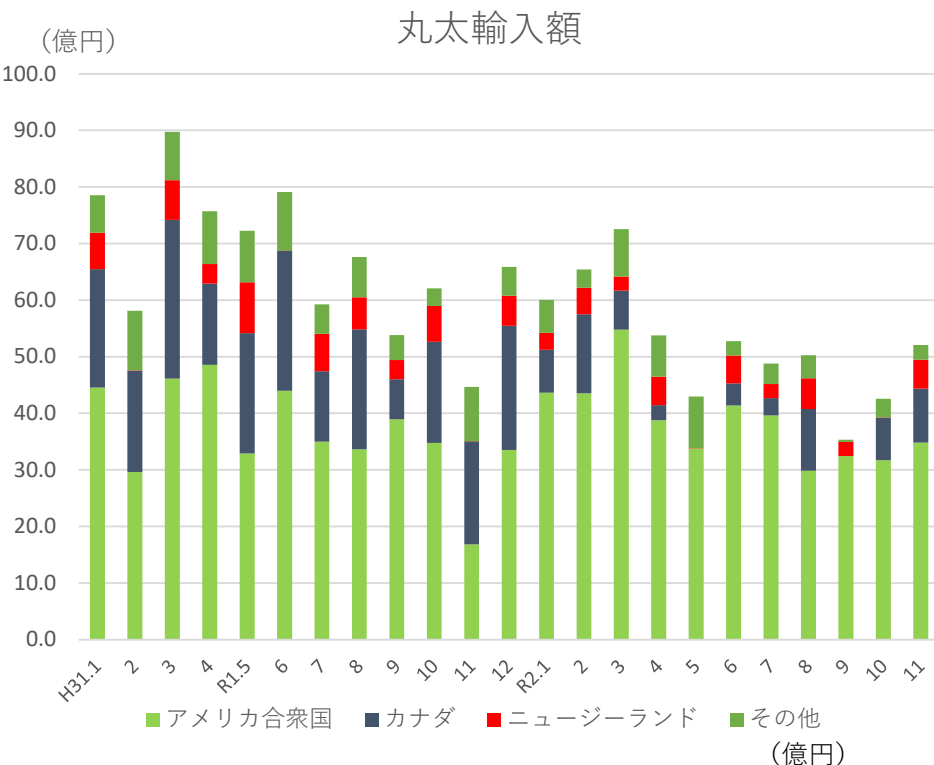
	R1.1～R1.11	R2.1～R2.11	R2/R1
合計	315.5	320.8	1.7%
中華人民共和国	145.2	153.1	5.5%
フィリピン	69.4	58.4	-15.8%
アメリカ合衆国	24.3	33.4	37.6%
大韓民国	26.6	27.6	3.9%
台湾	16.8	18.4	9.7%
その他	33.2	29.7	-10.5%

	R1.1～R1.11	R2.1～R2.11	R2/R1
丸太輸出量 (千m3)	861.7	1,048.9	21.7%
丸太輸出金額 (億円)	108.9	117.5	8.0%
中国向け木材輸出総額 (億円)	145.2	153.2	5.5%
丸太単価 (円／m3)	12,636.7	11,206.4	-11.3%

2 木材輸入額

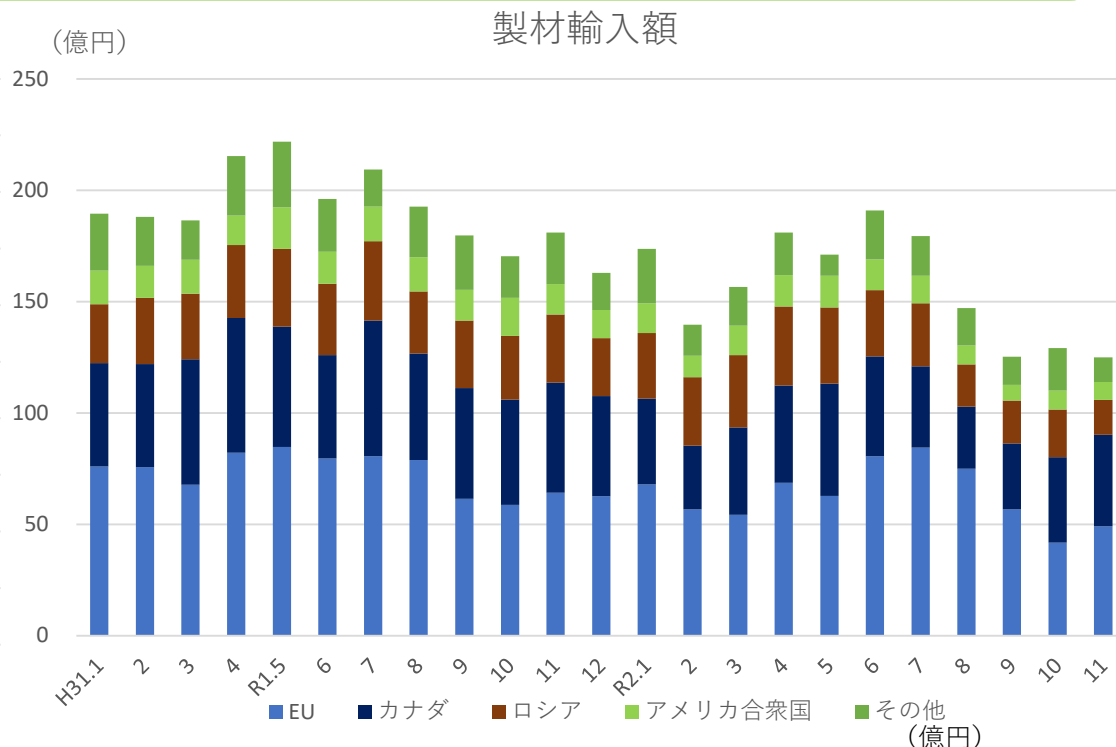
(1) 丸太・製材

- ・ **丸太の輸入**について、1～11月期と昨年同期の実績を比較すると、**22.2%減少**。そのうち、アメリカ材は昨年並みだが、**カナダ材は約7割の激減**。
- ・ **製材品**についても同様に比較すると、**全体で19.3%減**。そのうち**カナダ材が25.9%、アメリカ材が26.2%減少**している。



	R1.1～R1.11	R2.1～R2.11	R2/R1
合計	740.9	576.6	-22.2%
アメリカ合衆国	405.0	424.3	4.8%
カナダ	204.0	66.2	-67.5%
ニュージーランド	48.0	35.7	-25.7%
その他	83.9	50.4	-40.0%

資料：財務省「貿易統計」 ※HSコード4403

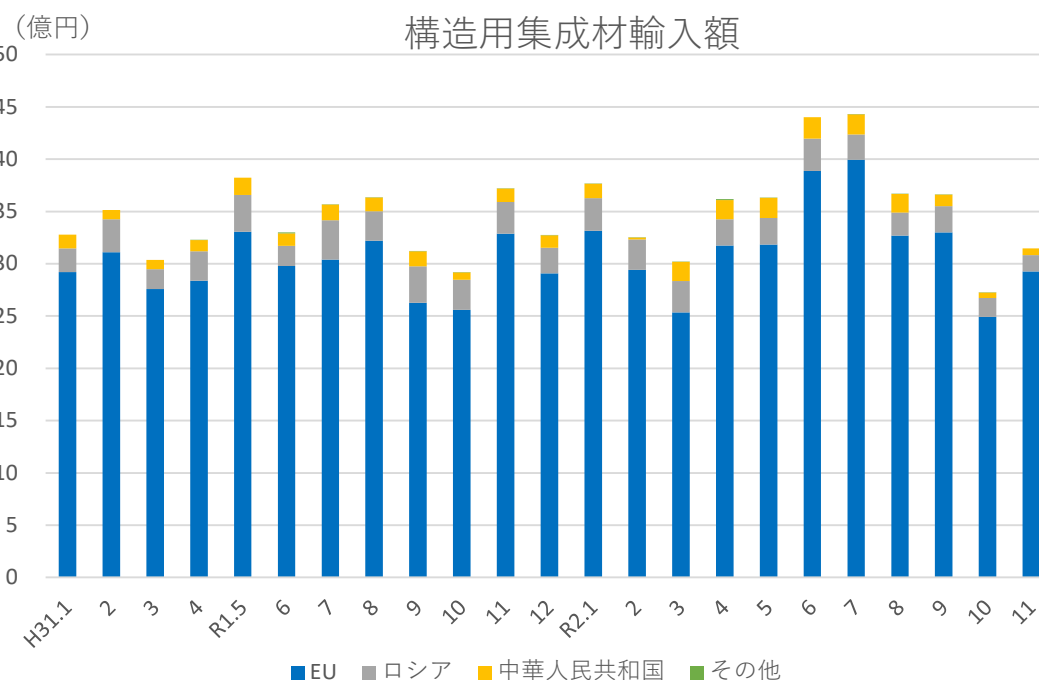
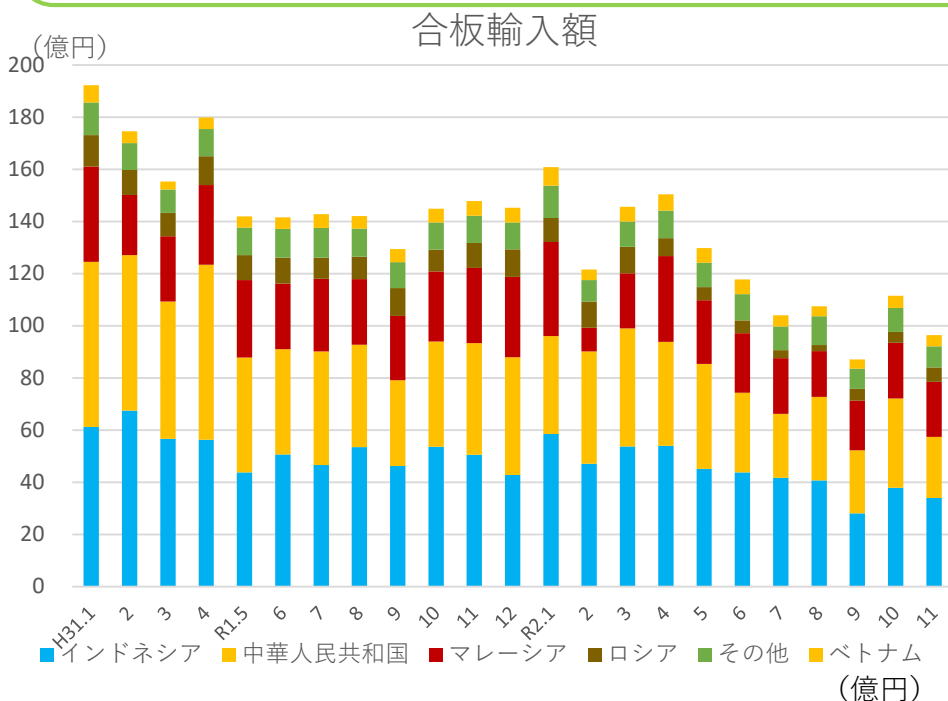


	R1.1～R1.11	R2.1～R2.11	R2/R1
合計	2,131.0	1,719.2	-19.3%
EU	810.0	697.9	-13.8%
カナダ	565.3	419.1	-25.9%
ロシア	338.2	295.5	-12.6%
アメリカ合衆国	166.5	122.8	-26.2%
その他	251.0	183.9	-26.8%

資料：財務省「貿易統計」 ※HSコード4407

(2) 合板・構造用集成材

- 合板の輸入について、1～11月期と昨年同期の実績を比較すると、**21.3%減少**。そのうち、**マレーシアは28.8%の減**となったが、**ベトナムからは2.3%の増**となっている。
- 構造用集成材についても同様に比較すると、全体で**5.9%の増**となっている。



	R1.1～R1.11	R2.1～R2.11	R2/R1
合計	1,692.7	1,332.5	-21.3%
インドネシア	586.1	484.3	-17.4%
マレーシア	526.6	375.2	-28.8%
中華人民共和国	303.2	246.6	-18.7%
ロシア	106.6	66.0	-38.1%
ベトナム	53.6	54.9	2.3%
その他	116.7	105.5	-9.6%

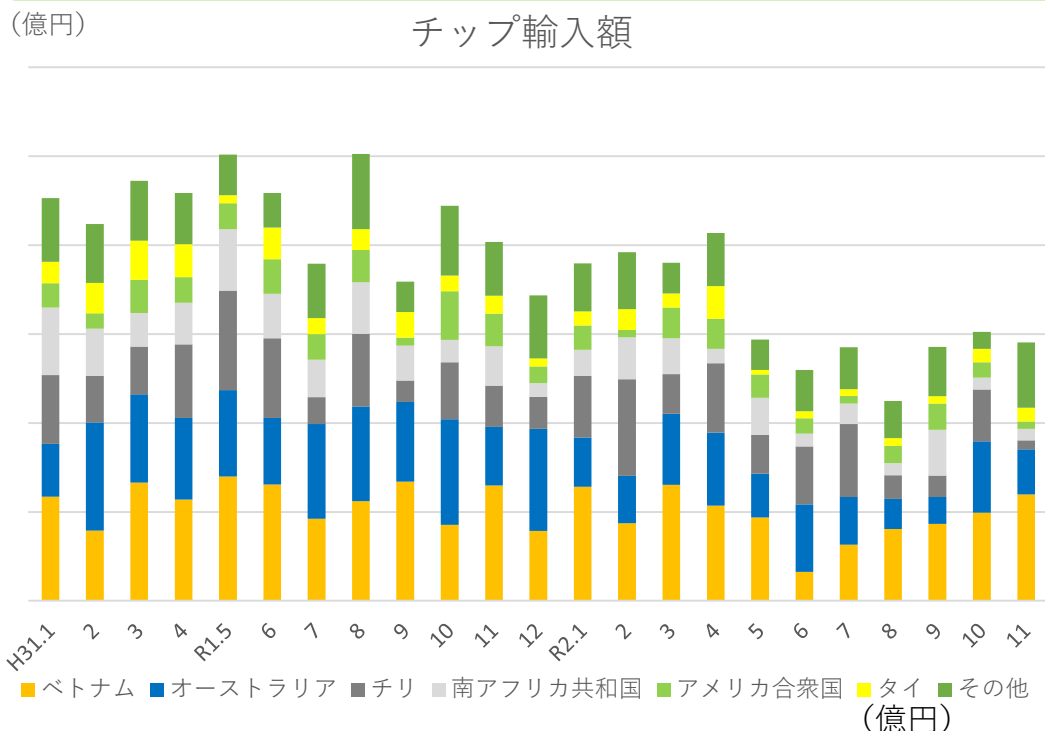
資料：財務省「貿易統計」 ※HSコード4408、4412

	R1.1～R1.11	R2.1～R2.11	R2/R1
合計	371.5	393.3	5.9%
EU	326.5	350.2	7.3%
ロシア	31.5	27.6	-12.4%
中華人民共和国	13.3	15.2	14.6%
その他	0.2	0.3	23.5%

資料：財務省「貿易統計」
※HSコード441891291、441899231、441899232、441899239

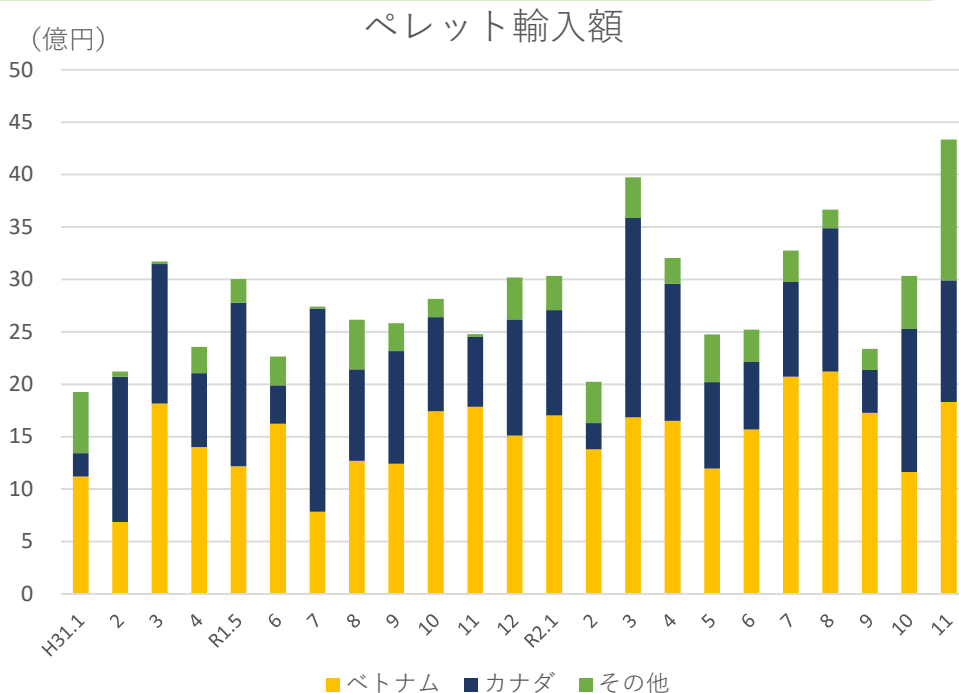
(3) チップ、ペレット

- ・ **チップの輸入**について、1～11月期と昨年同期の実績を比較すると、**27.8%減少**。
- ・ **ペレット**についても同様に比較すると、全体で**20.7%の増**となっており、そのうちベトナムから**23.2%の増**となっている。



	R1.1～R1.11	R2.1～R2.11	R2/R1
合計	2,428.3	1,753.7	-27.8%
ベトナム	633.4	514.0	-18.9%
オーストラリア	515.7	322.5	-37.5%
チリ	357.3	305.4	-14.5%
南アフリカ共和国	270.5	151.4	-44.0%
アメリカ合衆国	172.2	115.5	-32.9%
タイ	146.1	80.0	-45.2%
その他	333.2	264.9	-20.5%

資料：財務省「貿易統計」 ※HSコード440121、440122



(億円)

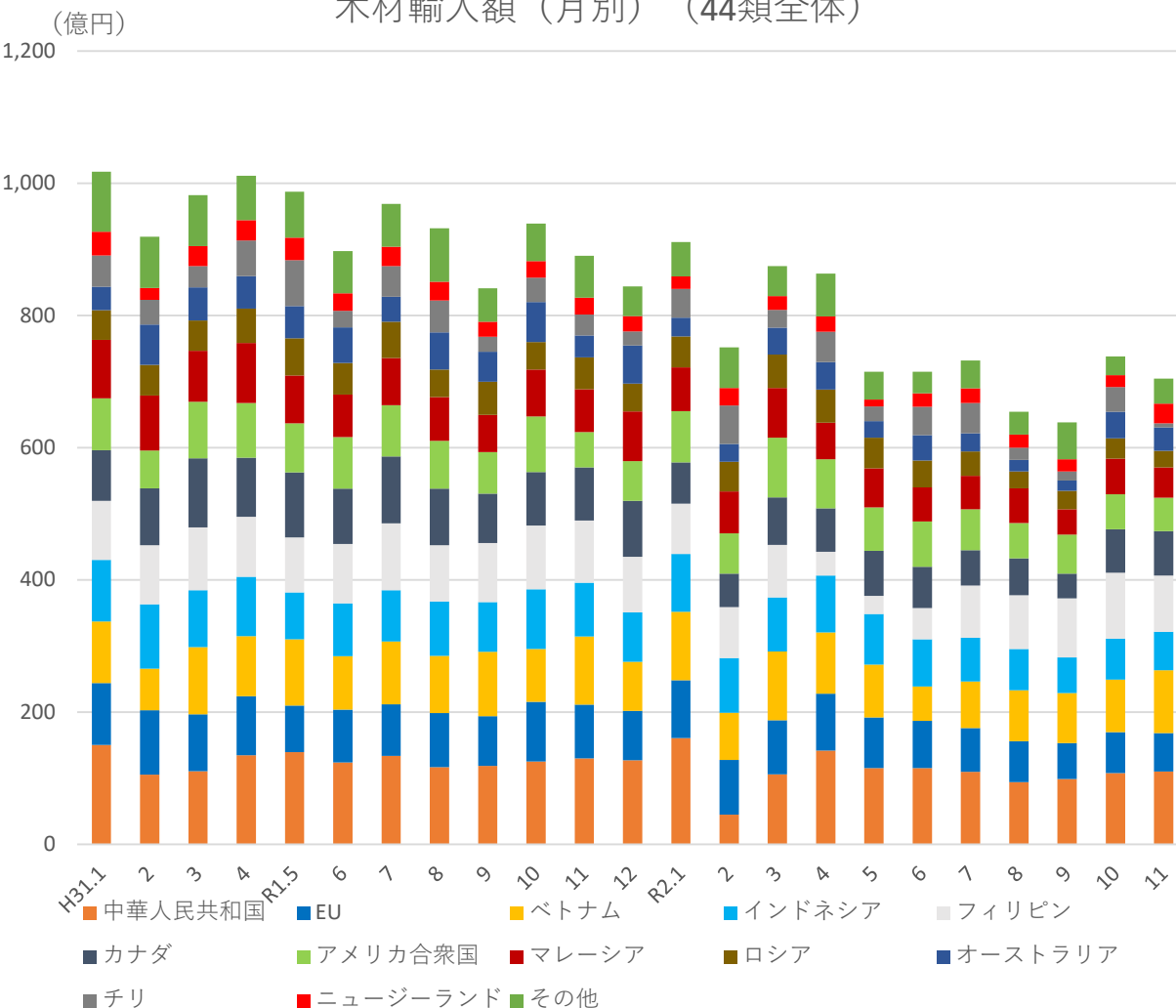
	R1.1～R1.11	R2.1～R2.11	R2/R1
合計	281	339	20.7%
ベトナム	147	181	23.2%
カナダ	110	111	1.2%
その他	24	46	95.2%

資料：財務省「貿易統計」 ※HSコード440131

(4) 総額

- ・木材輸入額は、1～11月の前年同期比で**18.9%の減少**。そのうち、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなどは、**25%以上の減少**。

木材輸入額（月別）（44類全体）



(億円)

	R1.1 ～R1.11	R2.1 ～R2.11	R2/R1
合計	10,787.9	8,744.7	-18.9%
中華人民共和国	1,385.8	1,201.7	-13.3%
EU	1,329.6	1,238.8	-6.8%
ベトナム	991.4	899.7	-9.2%
インドネシア	924.4	790.0	-14.5%
フィリピン	1,003.8	777.3	-22.6%
カナダ	960.6	660.8	-31.2%
アメリカ合衆国	806.5	715.1	-11.3%
マレーシア	806.4	611.8	-24.1%
ロシア	529.3	425.6	-19.6%
オーストラリア	530.6	336.2	-36.6%
チリ	451.9	361.9	-19.9%
ニュージーランド	306.0	229.0	-25.2%
その他	761.7	496.7	-34.8%

資料：財務省「貿易統計」